

高校生の大学進学・就職準備状況、過去5年間でほぼ変化なし（8月26日）

大学進学準備度評価のための標準試験を運営する ACT は 8 月 26 日、高校生の大学進学・就職準備状況に関する報告書「2015 年大学進学・就職準備状況（The Condition of College & Career Readiness 2015）」を発表した。本報告書は、ACT 試験を受験した 2015 年高校卒業生 190 万人のデータに基づいて作成されたもので、同試験受験者数は卒業生全体の約 60% に相当するという。これによると、ACT 試験受験者の 40% が受験科目「英語」「数学」「読解力」「科学」の 4 科目中少なくとも 3 科目において、ACT が制定する大学準備ベンチマークを上回る得点を獲得しているが、これは過去 5 年間でほぼ変化がないという。その反面、受験者の 31% は 4 科目のいずれにおいてもベンチマークに到達しておらず、これは過去 2 年間からは変化なく、2011 年及び 2012 年をやや上回るのみとのことである。これらの結果を受け、ACT は、①教育システムにおいて、基準・カリキュラム・指導法・評価の調整を促進、②生徒の向上度合に基づく教員評価システムを開発し、教員養成・専門性開発プログラムを強化、③生徒のプライバシー及び機密確保のために、生徒のデータの適正な利用を確立、の 3 点の対策を提案している。

ACT, U.S. High School Graduates Showing Little Progress in College Readiness

<http://www.act.org/newsroom/u-s-high-school-graduates-showing-little-progress-in-college-readiness/>